

10 宣誓文

わたくし達はこれから本格的な実習に入ります。関東学院大学の看護学生としてどのような姿勢で臨床・臨地実習に臨むかにあたって、私達は、本学の教育の基盤である校訓「人になれ・奉仕せよ」とは、いったいどのような意味を持つのかについて考えてみたいと思いました。

まず最初に「人になれ」について話し合いました。「人になれ」の意味を探るためには、自分自身について知らなければならないと考えました。そこで自分自身の評価を出し合ったところ、他者との関係性がうまくつけれないことや、成績が悪いといったように、私達の自己肯定感の高いものではありませんでした。しかし、これらの自己肯定感の原因を考えると、私たちは他者との比較やテストの結果など結果が見えるといった可視化できるものから、自分自身を評価していることに気がつきました。目で見えるものが1番わかりやすく、価値づけしやすいためであると思います。しかし、わたしたちの持つ価値というものは、それだけでは評価することができません。可視化できない所にも、わたしたち自身の価値が存在します。例えば、それは、人の気持ちや、考え方、性格などです。わたしたちは、可視化できるものに、目を奪われがちですが、本当は可視化できないものも、評価をするべきであると思いました。

可視化できないものに目を向けると、ある学生は「毎日美味しい美味しいと食べることができること」そのものにも、大きな価値があることに気がつきました。また私達のグループには、共通した、考え方、認識がありました。それは、「人の役に立ちたい」という思いです。それぞれの思いの背景には、人を助けたい、人に関心・興味があるなど様々でしたが、共通するのは困っている人を助けたいという気持ちで、見返りを求めているものではありませんでした。このように、わたしたちには、「人を助けたい」という思いを持っています。しかしながら、「人を助けたい」という気持ちだけでは、人は救えません。「人を助ける」には、知識・技術・(経験)が必要となります。

わたしたちは、まだ未熟であるため、人を救うという思いを成し遂げるためには、人としての成長が必要となります。つまり、成長するということは、多くの知識・技術を取り入れながら、豊かな人間になることだと思えます。したがって、今後看護師として成長するには、医療における知識、技術も必要になりますが、人としての成長がいかに重要であるかに気がつきました。

次に、「奉仕せよ」に関する話し合いについて述べます。まず、私たちは、「奉仕」という言葉から何を連想するかを共有しました。私達は、「奉仕」という言葉からは、主人に仕えているメイドやお手伝いさんを連想しました。では、奉仕するとは、ただ人の役にたつということだけなのでしょうか。かつて、看護師は白衣の天使や奉仕の精神と言われて、患者さんに献身的に尽くす姿が美德とされた時代がありました。その結果、看護師は体をこわすまで、また自分の時間を削るなど自分自身を犠牲にしてまでケアに携わりました。このように一人の人間の犠牲のうえに成り立つものが奉仕でしょうか。反面、今の医療の中では、知識が豊富な看護師や医師が、患者より上の立場に立っているように見え、言いたいことが言えず我慢をしている患者がいます。患者は、お金を払って医療というサービスを買っているのに関わらず、患者自身の個人が尊重されず、個性を奪われているということになります。

しかしながら、患者であっても、看護師であっても、どのような立場でも、個人個人は平等に尊重されるべきです。

そのようなことを踏まえて、私たちは、「奉仕する」と「人を助ける」ということは、違う意味を持つと考えます。助けるは、一方的な関係であるが、奉仕するは、お互いにとって利益があるような関係だと思えます。

そのような、自分が満たされ、他者も満たせるようなひととの関わり合いは、1番ベストな関係だと思います。私たちは、そのような関係を築けるような努力をし、していかななくてはならないと思います。患者と看護師の関係の中でも、同様のことが言えます。このようなディスカッションを通して、私達は人として成長することと、奉仕することは相互に関連しあっていると考えます。よって、これからこのような考えを大事に実習に臨みたいと思います。